

21 世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」研究集会 開催報告書

(化学研究所) 佐藤直樹、磯田正二、梅村純三、吉田弘幸

集会名：21 世紀 COE 化学研究所有機薄膜研究セミナー

場所・日程：化学研究所共同研究棟大セミナー室・2003 年 11 月 7・8 日

主な参加者：

学外：石井久夫（東北大通研）、岩本光正（東工大院理工）、小川一文（香川大工）、尾崎弘行（農工大工）、島田敏宏（東大院理）、長谷川健（日大生産工）、宗像利明（理研）、柳 久雄（神戸大工）

学内：磯田正二（化研）、梅村純三（化研）、小川哲也（化研）、梶 弘典（化研）、北川敏一（化研）、木村俊作（院工）、倉田博基（化研）、佐藤直樹（化研）、寺嶋孝仁（化研）、根本 隆（化研）、星野聡孝（院理）、山田啓文（院工）、吉田弘幸（化研）、渡辺 宏（化研）

総参加者概数：約 50 名

報告事項：

本セミナーは、『化学研究所ならびに「京都大学化学連携研究教育拠点」に参画している理学・工学研究科の関連研究室をはじめとして有機薄膜の研究に携る若手研究者・大学院生のために、第一線の研究者を講師に招き、有機薄膜・吸着系に関する調製制御、構造解析、物性測定など重点的な研究について、tutorial を念頭に置いたセミナーを開く。併せて、招待講演者を中心として本学の研究者とも相互に研究情報や意見の交換を推進し、交流を深めるとともに新たな研究協力の芽を育てる。』との開催趣旨で行った。

学外 8 名、学内 5 名（内、化学研究所外から 3 名）の方にこの趣旨に沿った講演をお願いし、それぞれ十分な配慮にあふれるとともに最先端の研究成果も交えた印象深い話題提供をしていただいた。化学研究所、工学研究科、理学研究科から少なからぬ大学院生・若手研究者が聴講し、議論にも積極的に加わって熱のこもった会となった。

一口に「有機薄膜」と言っても、真空蒸着などのドライな方法、気液界面を利用したウェットな方法などをはじめとして、その調製方法だけでも多彩である。各々特徴ある有機薄膜に注目し、構造のキャラクタリゼーションや手法の開発を交えた種々の特性解析、それらを踏まえた素子構築やその動作解析などの関連研究について、それぞれの主導的な研究者が提供した話題は極めて有意義であった。

一方、相互作用が期待されながらこれまで接触の機会に乏しかった分野間の研究者が一堂に会したともみなせる性格も備えた研究集会であったため、実際にそのような相互作用の種ともなる議論や交流も確認できた。

以上、本セミナーは実質的に一日余りという短いものではあったが、化学連携研究教育拠点形成事業が念頭に置いている学際性と先端性に見合った密度の高い研究集会であったと言える。

なお最後に、多忙な時期にも拘わらず、開催趣旨への十二分な配慮をもってご講演くださり活発なご議論をいただいた講師の方々には心から感謝の意を表したい。



高野化学研究所長による開会の辞



講演風景



質疑応答風景

以上の写真は、いずれも化学研究所広報室による撮影